

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600719		
法人名	医療法人 ニコニコ診療所		
事業所名	グループホーム おさかの里 (さくら館)		
所在地	大分県豊後大野市三重町小坂4194番地の9		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 家庭的な雰囲気の中で明るく笑顔が多く見られ、共に寄り添い、支えあって、暮らしていける様に努めている。2. ほぼ毎日地域ボランティアの協力がある。  
3. 自然に囲まれ、平屋造りで開放感があり、季節の花も楽しむことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ 事業所の庭には桜の木がふんだんに植えられ、車椅子での散歩や窓辺での桜観賞が出来るようにしている。  
・ 医療と介護の連携がとれており、適切な医療が受けられ、看取りケアも率先して行なわれている。また、市と連携を取り、定期的に地域住民に「認知症ケア」の研修を開いている。  
・ 多くのボランティアが継続的に来苑しており、利用者とのふれあいを大切にしている。

・ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて理念と6つのモットーを唱和し共有して実践している	理念は、「利用者の尊厳」や「ゆったりと生き生きとした生活の支援」など、5項目を掲げ、毎朝、唱和をしている。また、職員トイレに貼るなどして、振り返っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出かけることはほとんどないが、団体ボランティアが月に1~2回程度、個人ボランティアがほぼ毎日来られており、日常的に交流している	事業所は、開設して約10年が過ぎ、利用者は重度化している。50パーセントは介護度5になっており、出かけることも少なくなったが、地域の多くのボランティアが毎日のようにお話ボランティアとして訪れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや、サポーター養成サロンでの講和を行って活かしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況の説明と共に、テーマを決めて話し合いサービスの向上に努力している	推進会議のメンバーは、市の職員、ボランティア、入居者、多くの家族が参加し、意見を述べている。会議録は詳細に記録しており、面会者がいつも見られるように玄関に置いている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や集団指導等で制度の説明や実情の報告、相談、疑問点など聞いている	市町村職員による、集団指導が定期的に行なわれている。また、市との連携をとりながら、認知症ケアの研修を、地域住民や高齢者を対象に年6回行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないことを前提に、日々のケアの中で拘束ではないのかどうなのかなど、話し合い取り組んでいる	身体拘束の研修や、事例検討をしている。例えば、利用者の皮膚疾患については、治療前に引っ掻くなどの行為に対し、拘束しない対応の工夫について話し合いが行なわれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で虐待ではないのかなど、話し合い取り組んでいる。特に言葉の虐待については注意を払い防止に努めているが、時々きつい言葉が聞かれる		

事業者名: グループホームおさかの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等には出席しているが、関係者との話し合いなどは行っておらず活用していない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方等の不安や疑問点などに対して説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、面会等意見・要望など聞いて反映している	家族の意見は、面会時に聞いている。また、運営推進会議に多くの家族が出席し、積極的な意見が出ている。	運営推進会議の家族の意見に対し、一つひとつの意見をフィードバックし、対応策や取り組み状況を報告して、運営に反映することを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や日々のケアの中で意見や提案を聞いているが全てが反映されているとはいえない	職員の意見は、気づきノートや毎月の会議、各委員会(広報・環境・感染委など)で検討をしている。重度化している中で利用者の対応に苦慮している状況である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で出された要望など整備に努めていると思うが、反映されていない		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等に参加する機会があり、資格取得を進めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで交流しているが、相互訪問までは行っていないし、全体的に少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	見学や相談があった時から関係づくりに努め、本人との顔合わせなどを行っている		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	見学や相談時より疑問点や不安・困りごとなど聞いて関係づくりに努めている		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人や家族と話し合い必要とする支援への対応に努めている		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	シーツ交換やお茶入れ、洗濯物干し、たたみ、エプロンの紐結び、人生の先輩としての相談など、関係を築いている		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	面会時など共に食事をしたり、水分補給など行ったり、どうしても行きたい所に家族と共に出掛けられる様な関係を築いている		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	ボランティアの方や入居する前からの友人が訪ねてきたりして関係が継続されているが、馴染みの場所へはなかなか行けていない	定期的に多くのボランティアが来苑し、顔なじみとなっている。また、利用者の中には、携帯電話で自宅に朝夕電話をし、一家の主としての責任をもっている入所者もいる。さらに、馴染みの場所や墓参りなどもしている。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	ちょっとしたトラブルもあるが、利用者同士が関わりをもち、支えあえる様な支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院しても面会や衣類の洗濯をしたりして本人との関係を大切に、家族への連絡をする様に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに耳を傾ける様に努め、希望に近づける様に努め、職員同士が意向を共有している	思いや意向は、日頃の会話や表情から把握している。また、家族やボランティアの意見も聞き、利用者本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録や本人・家族からの情報を職員同士が共有する様努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由な過ごし方をしており、バイタルチェックや様子観察・話を傾聴することにより、現状の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見が反映される様話し合って介護計画を作成する様に努めている	アセスメントをもとに、家族や関連職員と検討し、利用者本位のサービスが提供できるよう現状に即した介護計画書を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やチェック表、申し送りノートなどに記入し、職員間で情報の共有を行ってプランの見直しに努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	姿勢は見受けられるが、実際には十分な考えや納得が得られず、既存のサービスを中心に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護度3以上の方のオムツ券の活用や、民間の介護タクシーなどを利用して外出などの支援をしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニット月2回の定期での往診があり、又、いつでも受診相談が出来る様な支援をしている	かかりつけ医と連携し、訪問診療や専門医なども、主治医の紹介で受診している。また、かかりつけ医は利用者と家族の絆を大切にした対応をとっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体に関するトラブルについては、Nsに伝え相談し、適切な支援が出来る様に支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調が落ち着けば早期の退院が可能かどうか連絡を取り合い、病院との情報交換や関係づくりに努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と話し合い、又、事前に申し合わせ書を作成し、チームでの支援に取り組んでいる	利用開始時に、契約書に沿って、重度化や終末介護について説明を行い、確認書を交わしている。これまで、事業所内で2名の終末介護を経験している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体学習会において、心臓マッサージやAEDの研修に前職員参加して実践出来る様努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練など行う時には、ボランティアや地域の方への声かけを行い、協力して頂ける様に努めている	防災訓練は、年に1回は、消防署を交えて行っている。また、ボランティアや地域の方々に呼びかけ、協力して貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を忘れることなく、プライドやプライバシーを損ねない様な声かけが出来る様努めている	理念の中に「一人ひとりの尊重やプライバシーを損なわないように支援」と明示しており、職員トイレの中に貼り、常に振かえり、言葉かけや対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で希望を伝えており、職員はそれを傾聴し希望がかなえられる様又自己決定が出来る様に努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしようと努めているが、重度化に伴って職員の都合が優先することが多くなっている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の好みもあり、本人に合ったおしゃれがなされる様に出来るだけ心がける様に努めている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い、朝食とおやつを時々手造りしているが、昼・夕は業者発注である。又、盛り付け・片付けなどは時々行っていただいている	重度化に伴い、ソフト食など個々の食事形態への工夫があり、職員は、マンツーマンで食事介助をしている。また、職員と利用者の献立は同じである。さらに、個々の水分補給は詳細に記録している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などチェックしており、ペースト・ムース・ハーフ食、栄養ドリンクなど、個々に合った食事形態で自分で出来るだけ食べていただける様支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スポンジブラシとの使用やウガイなど、個々に合った口腔ケアを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせてトイレ誘導やパット交換を行っており、出来るだけトイレでの排泄が出来る様支援している	利用者の排泄支援は、個々のパターンに沿って、トイレ誘導やパット交換をしている。また、24時間のチェック表を作成し、排泄の支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天やバナナ、オリゴ糖、朝起床時の水分補給、腹部マッサージなど予防に努めているが、緩下剤の使用も多い		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化に伴い、入浴日など決めているが、希望やタイミングによっては、入浴日に関係なく入浴できる様に努めている	利用者は、要介護度4～5の方が、2ユニットで9人利用している。浴槽はユニットバスであり、支援は2人体制で行っている。重度の利用者は、シャワー浴であるが軽度の利用者は普通浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ部屋やホール、ベッドやソファなどで日中は自由に休息しており、夜間は側にいることを伝え安心して眠れる様支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用まで全て理解しているわけではないが、症状の変化には注意している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やパズル、時代劇鑑賞、裁縫等、気分転換が出来る様、又、洗濯物たたみ等役割もある様、支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内は自由に散歩することが出来る。又、家族やボランティアさんの協力で出掛ける事もあるが、希望にそってドライブや買い物物の支援は難しくなっている	吉四六ランドやお花見など、ボランティアの協力のもと、外出支援を行っている。事業所の庭には、桜の木を多く植えており、お花見や車椅子での散歩も出来るようにしている。	

事業者名: グループホームおさかの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と話し合い、お金を持ちたい方は手に持たれており、買い物支援などにて好きな物を買える様支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて職員室から自由に電話をかけ話をしたり、かかってきた電話で自由に話をしている。又、本人持ちの携帯を準備して毎日話ができる様な支援もしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り付けをして工夫をしている。又、適度な刺激があり居心地良く過ごせるが、西日があたり眩しいこともある	共有空間は、季節の花をふんだんに活け、毎月の行事表、利用者の写真や作品を飾っている。いたるところから、手入れの行き届いたプランターが目に入り、心地よさが伺える。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや円テーブル・デッキ等に椅子を置いており、思い思いに過ごせる様工夫している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や飾り、使い慣れた物などあり、ソファや椅子など置いて過ごしやすく工夫している	一人ひとりの好みや作品・家具などを置き、個々の生活歴が伺える。ベッドの位置などへの配慮もされている。また、103歳の利用者の部屋は特技の絵や短歌や書なども掲示している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせてベッドの位置など工夫しており、手すりも多くさげない声かけにて安心して自立した生活ができる様工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600719		
法人名	医療法人 ニコニコ診療所		
事業所名	グループホーム おさかの里 (つつじ館)		
所在地	大分県豊後大野市三重町小坂4194番地の9		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 家庭的な雰囲気の中で明るく笑顔が多く見られ、共に寄り添い、支えあって、暮らしていける様に努めている。2. ほぼ毎日地域ボランティアの協力がある。  
3. 自然に囲まれ、平屋造りで開放感があり、季節の花も楽しむことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「さくら館」に記載
-----------

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて理念と6つのモットーを唱和し共有して実践している		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出かけることはほとんどないが、団体ボランティアが月に1~2回程度、個人ボランティアがほぼ毎日来られており、日常的に交流している		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや、サポーター養成サロンでの講和を行って活かしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況の説明と共に、テーマを決めて話し合いサービスの向上に努力している		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や集団指導等で制度の説明や実情の報告、相談、疑問点など聞いている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないことを前提に、日々のケアの中で拘束ではないのかどうのかなど、話し合い取り組んでいる		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で虐待ではないのかなど、話し合い取り組んでいる。特に言葉の虐待については注意を払い防止に努めているが、時々きつい言葉が聞かれる		

事業所名:グループホームおさかの里(つつじ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等には出席しているが、関係者との話し合いなどは行っておらず活用していない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方等の不安や疑問点などに対して説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、面会等意見・要望など聞いて反映している		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や日々のケアの中で意見や提案を聞いているが全てが反映されているとはいえない		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で出された要望など整備に努めていると思うが、反映されていない		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等に参加する機会があり、資格取得を進めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで交流しているが、相互訪問までは行っていないし、全体的に少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談があった時から関係づくりに努め、本人との顔合わせなどを行っている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談時より疑問点や不安・困りごとなど聞いて関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い必要とする支援への対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	シーツ交換やお茶入れ、洗濯物干し、たたみ、エプロンの紐結び、人生の先輩としての相談など、関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など共に食事をしたり、水分補給など行ったり、どうしても行きたい所に家族と共に出掛けられる様な関係を築いている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアの方や入居する前からの友人が訪ねてきたりして関係が継続されているが、馴染みの場所へはなかなか行けていない		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちょっとしたトラブルもあるが、利用者同士が関わりをもち、支えあえる様な支援に努めている		

事業所名: グループホームおさかの里(つつじ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院しても面会や衣類の洗濯をしたりして本人との関係を大切にし、家族への連絡をする様に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに耳を傾ける様に努め、希望に近づける様に努め、職員同士が意向を共有している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録や本人・家族からの情報を職員同士が共有する様に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由な過ごし方をしており、バイタルチェックや様子観察・話を傾聴することにより、現状の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見が反映される様話し合っ て介護計画を作成する様に努めている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やチェック表、申し送りノートなどに記入し、職員間で情報の共有を行ってプランの見直しに努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	姿勢は見受けられるが、実際には十分な考えや納得が得られず、既存のサービスを中心に支援している		

事業所名:グループホームおさかの里(つつじ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>介護度3以上の方のオムツ券の活用や、民間の介護タクシーなどを利用して外出などの支援をしている</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>各ユニット月2回の定期での往診があり、又、いつでも受診相談が出来る様な支援をしている</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>身体に関するトラブルについては、Nsに伝え相談し、適切な支援が出来る様に支援している</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>体調が落ち着けば早期の退院が可能かどうか連絡を取り合い、病院との情報交換や関係づくりに努めている</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族やかかりつけ医と話し合い、又、事前に申し合わせ書を作成し、チームでの支援に取り組んでいる</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全体学習会において、心臓マッサージやAEDの研修に前職員参加して実践出来る様努めている</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練など行う時には、ボランティアや地域の方への声かけを行い、協力して頂ける様に努めている</p>		

事業所名: グループホームおさかの里(つつじ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を忘れることなく、プライドやプライバシーを損ねない様な声かけが出来る様努めている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で希望を伝えており、職員はそれを傾聴し希望がかなえられる様又自己決定が出来る様に努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしようとはしているが、重度化に伴って職員の都合が優先することが多くなっている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の好みもあり、本人に合ったおしゃれがなされる様に出来るだけ心がける様に努めている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い、朝食とおやつを時々手造りしているが、昼・夕は業者発注である。又、盛り付け・片付けなどは時々行っていただいている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などチェックしており、ペースト・ムース・ハーフ食、栄養ドリンクなど、個々に合った食事形態で自分で出来るだけ食べていただける様支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スポンジブラシとの使用やウガイなど、個々に合った口腔ケアを支援している		

事業所名: グループホームおさかの里(つつじ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせてトイレ誘導やパット交換を行っており、出来るだけトイレでの排泄が出来る様支援している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天やバナナ、オリゴ糖、朝起床時の水分補給、腹部マッサージなど予防に努めているが、緩下剤の使用も多い		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化に伴い、入浴日など決めているが、希望やタイミングによっては、入浴に関係なく入浴できる様に努めている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ部屋やホール、ベッドやソファーなどで日中は自由に休息しており、夜間は側にいることを伝え安心して眠れる様支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用まで全て理解しているわけではないが、症状の変化には注意している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やパズル、時代劇鑑賞、裁縫等、気分転換が出来る様、又、洗濯物たたみ等役割もある様、支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内は自由に散歩することが出来る。又、家族やボランティアさんの協力で出掛ける事もあるが、希望にそってドライブや買い物支援は難しくなっている		

事業所名:グループホームおさかの里(つつじ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と話し合い、お金を持ちたい方は手に持たれており、買い物支援などにて好きな物を買える様支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて職員室から自由に電話をかけ話をしたり、かかってきた電話で自由に話をしている。又、本人持ちの携帯を準備して毎日話ができる様な支援もしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り付けをして工夫をしている。又、適度な刺激があり居心地良く過ごせるが、西日があたり眩しいこともある		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや円テーブル・デッキ等に椅子を置いており、思い思いに過ごせる様工夫している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や飾り、使い慣れた物などあり、ソファーや椅子など置いて過ごしやすく工夫している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせてベッドの位置など工夫しており、手すりも多くさりげない声かけにて安心して自立した生活ができる様工夫している		